

宮城県

テーマ「共生社会の一助として ～ICT 利活用～」



宮城県では、今回のテーマについて考えていく上で、福祉現場のみならず社会全体の人材不足に着目をしました。今後より働き手が減ると予測される中、対人支援はITやAIにはできません。では、福祉の担い手として疲労減少や業務効率化を目指すことで、気持ちにゆとりができ、利用者支援の還元につながっていくと考えます。また、ICTを駆使することで障害の有無に関わらず多様な人々の雇用を創出でき、「共生社会」につながっていく可能性があると思われます。

福祉分野からICTを知ろうと歩み寄ることで、福祉畑ではない企業や個人、別の視点など織り交ぜながら「仲間とのつながり」が生まれるかもしれません。「支援のかたちを豊かに」そんな思いを抱えながら、手探りな、私たちの今を伝えていきます。